

第1回中心市街地グランドデザイン策定委員会 議事録

1 開催日時

令和3年7月16日（金）10時00分から

2 開催場所

小牧市役所 東庁舎5階 大会議室

3 出席委員（名簿順）

大塚 俊幸	中部大学
鶴田 佳子	岐阜工業高等専門学校
生田 京子	名城大学
名和 千博	小牧商工会議所
副島 孝	公共交通利用促進協議会
高橋 美喜雄	小牧市観光協会
眞水 明子	ラピオ通り商店街振興組合
水野 嗣則	小牧小学校区地域協議会
加藤 紀文	小牧にぎわい隊
秦野 利基	こまき市民活動ネットワーク
犬飼 武彦	小牧市歴史ガイドボランティアたぶの木会
日比野 俐	都市景観形成重点地域の景観を守る会
廣瀬 昌美	公募委員
永渕 七恵	公募委員
伴野 純二	公募委員

4 事務局

山下 史守朗	小牧市長
鵜飼 達市	都市政策部長
笹尾 拓也	都市政策部次長
丹羽 智則	都市政策部都市計画課長
馬庭 貴彦	都市政策部都市計画課都市計画係長
白木 裕之	都市政策部都市計画課都市計画係主任
立山 由希子	都市政策部都市計画課都市計画係主事

5 会議内容

1 開会

2 策定委員会委員自己紹介

3 議題

（1）会議の公開について

（2）委員長及び委員長職務代理者の選出について

(3) 中心市街地グランドデザイン戦略会議のまとめについて

(4) 中心市街地グランドデザインの策定方針について

(5) 中心市街地グランドデザインの体系（案）について

4 報告

(1) 中心市街地グランドデザインまちづくりワークショップの開催について

5 その他

■議事録

【事務局】

時間となりましたので、始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。

ただいまより第1回小牧市中心市街地グランドデザイン策定委員会を開催させていただきます。

私は、都市政策部次長の笹尾でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

委員の皆様方に、本日委嘱状を配付させていただきました。本来であれば交付式を行うところですが、時間の都合もございますので、委嘱状の配付をもって委員の就任とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、進めさせていただきます。

まず、資料の確認をさせていただきます。

机の上にあるかと思いますが、本日の配付資料は、次第の下の配付資料一覧に記載されたとおりであります。右上には資料番号を入れさせていただいておりますので、確認をお願いいたします。不足等ございませんでしょうか。

それでは、進めさせていただきます。

初めに、山下市長より挨拶を申し上げます。

【山下市長】

皆さん、おはようございます。市長の山下でございます。

本日は、中心市街地グランドデザイン策定委員会ということで、皆様方にそれぞれ委員をお願いいたしまして、第1回の会ということで御案内させていただき、お集まりいただきました。皆様には、御出席いただきまして誠にありがとうございます。

会場の設営の都合で私はこの場所からということで、後ろからで見にくいところで御挨拶を申し上げ、大変恐縮ですが、一言御挨拶を申し上げたいと思います。

中心市街地のグランドデザインということですが、長年の課題でありますし、満を持してこの策定委員会を進めていこうということで本日を迎えているところであります。

私も、市長に就任いたしましてこれで11年目に入っておりますけれども、中心市街地がどうあるべきかということについて、ひとつ大きな課題ということを感じながら、これまで市政運営を進めてきたところでございます。

かなり前から、駅前を中心に中心市街地の再編、再生ということが全国的に言われていまして、小牧も30年、40年も前、もっと前からいろいろな取組を進めてきて、現在の小牧駅周辺の状況になってきているわけですが、全国的に取組というのは、バブル崩壊がございまして頓挫をし、小牧駅前も長年計画が中途の状態で放置されてきた部分もございます。そうした中で、就任以来

様々な議論をさせていただきまして、様々な施策を進めてまいりました。

現状、小牧駅から小牧山への動線、小牧山と信長の小牧山城ということで価値が見直されて、様々な施策の推進をしておりますし、駅前につきましては図書館の整備がなされ、またラピオも、長年の懸案でありましたが再構築がほぼ完了している状況で、新たな出発を迎えております。こうした中で、駅前の状況も新たなスタート地点に立っているという認識を持っております。

御案内のとおり、全国的にもそうでありますし、小牧市も少子高齢化という大きな流れの中で、これから人口減少がさらに加速していくというような状況の中で、都市の問題としても、都市運営の効率化という意味でも、コンパクトシティ・アンド・ネットワークということが言われておりまして、市内の中でこれからの居住誘導を推進していく地域というのも設定しながら、特に小牧市においては名鉄小牧線沿線地区を中心に居住誘導推進を図っていくということが位置づけられているところであります。

小牧市全体様々な課題があって、全体のまちづくりをしていくのですけれども、そうした中で中心市街地の果たすべき役割、そして今後の人口減少への対応や小牧市の活性化ということ、様々な課題を全体的に見据えながら、まちづくりを推進していかなければいけないと思っております。

そうした中で、それぞれ、東部に住む人も西部に住む人も北部に住む人も南部に住む人もいるわけですが、全体のアンケートの中でも、中心市街地が少し寂しいなという意見というのは毎年ございましたし、やはりまちづくりの観点から求心力が必要で、街の中心に何が要るかというところとやっぱりシンボルが必要だと。小牧山と中心市街地という中で議論を進めて、現在があるわけがございます。

おさらいも含めて、今の状況をお話ししておりますけれども、そうした中で、先ほど申し上げましたように、駅前の状況については様々な取組がこれまで、図書館とか未来館も進めてきましたけれども、それぞれ一つの区切りになっておりまして、新たな出発点ということで、現在があると認識しているところであります。

こういった中、これからを見据えて中心市街地のあり方について、あるいはこれからの活性化に向けてどういう方策が必要なのかということを具体的な方策も含めて議論をしていかなければならない。一定の方向性を共有しながら、行政だけでなく、そこに暮らす住民の皆さんはじめ、経済界とか様々な皆様方の思いを乗せて、方向性を一つにして、力を合わせて進めていかなければいけないと思っております。

そうした中で、令和元年から、私が本部長を務めております市政戦略本部の中で、中心市街地グランドデザイン戦略会議というものを位置づけまして、私も参加しておりますけれども、外部の有識者の皆様方にも御参加いただいて、中心市街地の目指すべき姿について多角的な視点で議論を行ってまいりました。その議論を踏まえまして、本日の議題にございます中心市街地グランドデザインの策定方針を作り上げているところであります。

後ほど御説明申し上げますと思いますが、今日はこれまでの中心市街地グランドデザイン戦略会議の議論、これは議事要旨等を公開しておりますので、それも踏まえて議論を積み上げていただければ幸いだと思っております。

皆さん方に、魅力あふれる計画となるように活発な御議論いただきたいわけですが、例えば、戦略会議の中でも、歩いて楽しめるまち、中心市街地であるといいねという御意見なども多く出ておりました。歩いて楽しむためには、どこがどうなっているのか、また、シンボルロードの歩道の再整備で、例えばベンチを置いたらどうだろうというような御意見もありましたが、

ハード、ソフトの両面から議論していただきたいと思っております。

ラピオ通りの商店街のほうでは、地区計画で建物の1階部分の規制がございますし、シンボルロード沿いにはそれがかかっていないということもあります。そういったハード面の議論も当然必要だろうと思っております。

シンボルロードから路地へ、魅力ある店舗等の集積、歩道の有効活用のための道路整備などの規制緩和をするかどうかといった法規制などの観点からも御議論をお願いしたいと思っております。例えば、歩いて楽しむまちづくりということでオープンカフェが事例としてあると思うのですが、店先の歩道上にベンチを置いてそこで飲食ができるとかいうことをやろうと思いますと、現状ではできませんので、当然規制緩和といったことも必要であります。魅力ある、活力あるまちづくり、あるいは多くの方が集って歩いて楽しめるようなまちづくりといったことをするには、やはりそうした法整備的な議論も必要だということがございます。これまでの議論を踏まえまして、そういったアイデアも出ているところでございます。

いずれにしても、各種施策にはメリット、デメリットがございます。それらの議論を踏まえて、必要性等も十分に御議論いただきまして、皆様の御意見を踏まえて、行政として方向性を皆さんで共有して、事業として進めていくのかどうかといったことを判断して進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

すみません、ちょっと雑駁になってしまいました。いろいろ申し上げましたが、これまでの議論を踏まえて、皆さん方に具体的な、ハード、ソフト両面の御議論をいただけると大変ありがたいということで申し上げました。

中心市街地に関する皆様の御経験や御知見の中から、中心市街地の将来像を描いていきたいと思っておりますので、ぜひ忌憚のない御意見、御提言を賜れば。人数が多いので、人数が多い会議というのはどうしても形式的になりがちで、なかなか発言しにくいというのがどの会議でもございすけれども、10人を超えておりますので少しやりにくいかもしれませんが、硬くならず、思う存分皆さん方から御発言、御議論いただきたいと思っておりますので、その点もよろしくお願い申し上げます。冒頭の挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

なお、市長におきましては、公務の関係上会議の途中で退席させていただくことがあるかと思っておりますので、あらかじめ御了承ください。

続きまして、次第2、策定委員会委員の自己紹介であります。

本日は第1回目の委員会ということでありますので、委員の皆様にご自己紹介をお願いしたいと思います。

資料2が委員名簿となっております。名簿の順にお名前を申し上げますので、委員の皆様におかれましては、大変恐縮ですが、その場で御起立いただいた後、一言お願いしたいと思います。

順にお名前を読み上げさせていただきます。

中部大学教授であります大塚俊幸様。

【大塚委員】

中部大学の大塚でございます。

人文学部の歴史地理学科で地理の授業を担当しています。専門は都市地理学で、都市を研究し、その成果をいかに政策につなげていくかということをやっています。

先ほど市長からお話もありました戦略会議にも参加させていただいておりました。
よろしく願いいたします。

【事務局】

続きまして、岐阜工業高等専門学校教授の鶴田佳子様。

【鶴田委員】

岐阜高専の鶴田でございます。

私は建築学科に所属しておりますが、専門は都市計画でございます。主に土地利用、景観等を研究テーマにしております。各自治体の都市計画マスタープランでありますとか各種計画策定に関わらせていただいております。

戦略会議でもお世話になりました。
どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

名城大学教授の生田京子様。

【生田委員】

名城大学の生田と申します。

私は建築計画を専門としております。小牧市では、図書館の設計者の選定と、あとは戦略会議でお世話になっております。いよいよラピオと図書館が建って、私、子供もいるんですけれども、外からでも訪れたいまちになってきている感じがしているので、とてもいい機運じゃないかと思って楽しみにしております。

よろしく願いいたします。

【事務局】

小牧商工会議所の名和千博様。

【名和委員】

おはようございます。

前回に引き続き、今回も参加させていただくわけですが、私自身、まちづくりというのは専門としているわけでもなく、勉強してきたわけでもございません。しかしながら、商工会議所から輩出させていただいたということで、商業者としての視線で、感性を生かした発言をさせていただければと思っておりますので、ひとつよろしくお願いいたします。

【事務局】

公共交通利用促進協議会の副島孝様。

【副島委員】

公共交通利用促進協議会から来ております。

この会自体は初めてですけれども、以前からいろんなことで多少絡んでいますので、以前と比べると大分条件整備ができてきたかなということは思っております。

微力ですが、協力させていただきたいと思っております。よろしくお願いします。

【事務局】

小牧市観光協会高橋美喜雄様。

【高橋委員】

おはようございます。小牧市観光協会理事の高橋でございます。

私はここへ初めて参加させていただきます。観光協会の代表で来たのは、私が横町区、街の中に住んでおります関係で今回参加させていただくことになりました。

よろしくお願いいたします。

【事務局】

ラピオ通り商店街振興組合眞水明子様。

【眞水委員】

おはようございます。ラピオ通り商店街振興組合から参りました眞水明子と申します。

今回初参加となりますが、小牧市に住まい 50 何年となりますので、また商店街の中に住んでいるということもありますので、その視点から発言させていただきたいと思います。

よろしくお願いします。

【事務局】

小牧小学校区地域協議会水野嗣則様。

【水野委員】

おはようございます。小牧小学校区地域協議会の会長をさせていただいております水野嗣則と申します。

私は、実は、先ほどの戦略会議のときに、ちょっと縁がありましてファシリテーターを務めさせていただきました。私どもの小牧小学校区というのはまさに中心市街地がすっぽり入ったような校区でありますので、いろんな議論を楽しみしております。

よろしくお願いいたします。

【事務局】

小牧にぎわい隊加藤紀文様。

【加藤委員】

小牧にぎわい隊企画委員長をやっております加藤紀文です。よろしくお願いします。

私も戦略会議のときからいろいろ議論させていただいています。地域の活性化とかまちづくりとかいろいろ興味がありますので、よろしくお願いします。

【事務局】

こまき市民活動ネットワーク秦野利基様。

【秦野委員】

皆さん、こんにちは。こまき市民活動ネットワークの秦野でございます。

市民活動ネットワークでは、市民活動の支援と、市民活動と行政の協働のお手伝いということをやっております。代表理事をさせていただいています。東部のまちづくり戦略会議でも、コーディネーター役でお手伝いさせていただきました。

私も小牧で生まれ育って、ちょうど小中学校時代に遊ばさせていただいたところと全く同じだと思っていますので、ぜひ発展のために、少しでもお力添えさせていただければと思います。

よろしくお願いします。

【事務局】

小牧市歴史ガイドボランティアたぶの木会犬飼武彦様。

【犬飼委員】

小牧市歴史ガイドボランティアたぶの木会の犬飼と申します。

たぶの木会の結成以来 12 年頑張ってきました、いろんな人と会っているので、その辺から、感じたこととかを提案させていただこうかなと思っています。

よろしくお願いします。

【事務局】

都市景観形成重点地域の景観を守る会日比野俐様。

【日比野委員】

おはようございます。日比野と申します。

長い名前で、初めて皆さんが知ることになるかと思います、小牧の都市景観形成重点地域の景観を守る会の日比野でございます。

正式には、都市景観形成重点区域というのが指定されていて、その周辺を中心にして景観を維持していくという会ですから、何か特別にというわけではないですけども、何か事があれば、市民としての立場で協力したいと思っています。

私自身は、ここで生まれて小牧小学校、中学校も高校も、全てここです。以来、仕事の関係、薬学関係で外に 50 年間ぐらい住んでおりました。その間は、年に数回帰ってくる程度で、皆様方にお会いする機会も当然ありません。こちらへ帰ってきて、さあ何をするかということで考えているとき、ちょうどそのときに第三次の環境基本計画の委員を公募していたので、応募してみようということで応募して 2 年間、再度 2 年間で、4 年間関わらせていただいて、非常に勉強になりました。

これまでの分野とは全く違うわけですがけれども、いい勉強をさせていただきました。

この都市景観形成重点地域の景観を守る会は、できて2年目に入ったところです。だから、皆さん方に教えていただくことはいろいろ多いかもしれません。

今回の小牧市中心市街地グランドデザイン策定に、お役に立つかどうか甚だ疑問ですがけれども、このデザインの歴史・文化ゾーンの中にある「景観を守る会」として協力させていただきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

【事務局】

公募により選出されました廣瀬昌美様。

【廣瀬委員】

おはようございます。廣瀬と申します。

このたび、公募委員として選出させていただきました。私自身は、2001年から小牧に嫁いで子育てして、小牧で生活するようになって今年でちょうど20年になります。その中で、自分事として、子育てにも向き合って、今は市民活動団体の子育て支援団体の代表だったり、認知症カフェの実行委員会の会長だったり、会社のような仕事という形ではなくて、人がやりたくて集まるというところのチームというか、コミュニティーのリーダーをさせていただいているんですが、こういったところの大きな物事を動かすときに、自分事感で動いていかれる方を引っ張っていくというのはとても大変なところだと思っています。市長のお仕事、本当に大変だなと思ってたりしています。

令和元年の小牧市都市計画マスタープランの改訂のための懇談会というところで意見を話させていただいた御縁もあるんですが、そういったところで、子育て支援の目線だとか子育ての当事者としての目線だとか、あと、小牧市の中心市街地を普段から活用している市民として、何かお力添えできることがあればと思って、こちらにおります。

今後ともよろしくお願いいたします。

【事務局】

同じく、永渕七恵様。

【永渕委員】

永渕といいます。もともと大阪の出身でして、小牧に住んで10年ぐらいになります。小学生の娘が2人と夫の4人家族ですが、図書館とか未来館とか、次々と楽しい施設ができて、そういうのをとても楽しみにしている家族の一人として、こういった場にいることができて大変光栄に思っております。

よろしくお願いいたします。

【事務局】

同じく、伴野純二様。

【伴野委員】

公募委員で、伴野です。

私も地元、小牧駅のある朝日に住民として 60 年以上住んでいます。区長として約 10 年。去年は、小牧区長会の地区会長としていろんな審議会に参加させていただきました。その中でいろんな御意見を聞きながら、今回の委員会で何かお手伝いできることがあるかなということで応募させていただきました。

私、本当に何も知らないです。ただ、区長として地べたをはいずり回ってきました。だから、人間関係の難しさというのは非常に身に染みんでいます。そういったソフトな面でのお手伝いできればいいかなと思っています。

水野委員の小学校区の地域協議会の専務理事としての肩書もありますので、そういう意味で、まちづくりに関して勉強したいと思っておりますので、ひとつよろしく願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

続きまして、事務局の職員を紹介させていただきます。

都市政策部長の鵜飼です。

都市計画課長の丹羽です。

都市計画課都市計画係長の馬庭です。

都市計画課担当の立山です。

【事務局】

それでは、議事に入らせていただきます。

議事の進行につきましては委員長にお務めいただくことになっておりますが、初めての委員会であり、委員長が選出されておられませんので、選出されるまで事務局が進行させていただきます。

それでは、議題（１）会議の公開について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

それでは、議題（１）会議の公開について、私から説明させていただきます。

情報公開の一環といたしまして会議を公開することは、委員会運営の透明性・公平性を確保し、市政に対する市民の理解と信頼を深めることに寄与するものであります。また、小牧市審議会等の会議の公開に関する指針におきましては、審議会等の会議は原則として公開することとなっております。

これらのことから、本委員会につきましては、個人情報等を取り扱う議題は非公開とさせていただきますが、その他の議題につきましては原則公開とさせていただきますので、よろしく願いいたします。

資料３の傍聴要領（案）を御覧いただきたいと思います。

傍聴手続といたしましては、（１）で入室の時刻、（２）で先着順の旨を記しております。

傍聴者の定員につきましては、原則 25 名とさせていただいております。ただし、新型コロナウイルス感染症の拡大など人の密集を防ぐ必要がある場合や不測の事態等が発生した場合には定員を変更できる旨を記載しております。

また、傍聴者の遵守事項といたしまして、（１）に記載させていただきました。（２）では、傍聴者が遵守事項に違反した場合は退場していただく旨を記載いたしました。

なお、記録用といたしまして随時撮影等させていただくとともに、議事録につきましては、市のホームページ、また情報公開コーナーにて公開させていただきますので、併せてお願いいたします。

【事務局】

事務局より説明がありました。

御質問等ございませんでしょうか。

ないようですので、ただいま御説明させていただいたとおり原則公開とし、個人情報等を取り扱う議題については非公開とすることによろしいでしょうか。

（委員：異議なし）

ありがとうございます。

それでは、本委員会は原則公開とし、個人情報を取り扱う議題については非公開といたします。

続きまして、議題（２）委員長及び委員長職務代理者の選出についてであります。

本委員会を運営していくため、委員長を選出していただきたいと思います。

資料１になりますが、小牧市中心市街地グランドデザイン策定委員会設置要綱第４条第１項におきまして、委員の互選により委員長を定めることとされております。

いかがいたしましょうか。

水野委員、お願いします。

【水野委員】

指名推薦の方法としまして、委員長には、大塚委員にお願いしてはどうかと思います。

先ほどお話がありましたように、大塚委員は令和元年度から４回にわたって開催されました中心市街地グランドデザイン戦略会議の委員を務められました。また、都市地理学や都市政策を御専門とされるなど学識経験も豊富であられることから、適任であると考えます。

以上です。

【事務局】

ただいま水野委員から、大塚委員を委員長にとの御発言がございました。

委員の皆様、いかがでしょうか。

（委員：異議なし）

御異議がないようでございますので、委員長は大塚委員にお願いいたします。

移動をお願いします。

それでは、ただいま選出されました大塚委員長より一言御挨拶を頂きたいと思います。よろしくお願いいたします。

【大塚委員長】

ただいま委員長に選出いただきました大塚でございます。

この会議の役割というところで最初に市長からお話がありましたが、令和元年度から２年間にわたって戦略会議という、市長を本部長とする、中心市街地のグランドビジョンをどう描くかをいろいろな方々がフリーに意見交換をする場において、話し合ってきたわけです。我々としては、それを形ある計画として、次の実践、実行にいかにつなげていくのかという大切な役割を担っている会

だと思っております。

委員の人数もたくさんいらっしゃいますし、時間も限られていますが、できるだけ皆さんに発言いただきたいと思っておりますので、コンパクトに発言していただいて、あとは他の委員の皆さんのご意見をお聞きください。ほかの人の意見を聞く機会はなかなかないと思いますので、そうした皆さんの意見をお聞きいただいて、共有しながら計画を作って実践につなげていきたいと思っておりますので、皆さん、どうぞ御協力のほどよろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

以後の議事進行につきましては大塚委員長にお願いしたいと思います。

それでは、よろしくお願いいたします。

【大塚委員長】

次第に沿って議事を進めさせていただきます。

まずは、委員長の職務代理者の選出についてであります。

小牧市中心市街地グランドデザイン策定委員会設置要綱第4条第3項におきまして、委員長に事故があるときは委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理するとありますので、これに基づきまして、私から職務代理者の指名をさせていただきたいと思います。

職務代理者としましては、学識経験豊富な生田委員を指名したいと思いますが、御異議ございませんでしょうか。

(委員：異議なし)

異議なしとのことですので、生田委員にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、議題（３）、（４）に移りたいと思います。

議題（３）中心市街地グランドデザイン戦略会議のまとめについてと、（４）の中心市街地グランドデザインの策定方針については関係がありますので、一括で議題とさせていただきたいと思います。

まず、事務局より説明をお願いいたします。

【事務局】

それでは、議題（３）及び（４）につきましては関連がございますので、一括して御説明させていただきます。

議題（３）中心市街地グランドデザイン戦略会議のまとめについてであります。

中心市街地グランドデザイン戦略会議とは、にぎわいと活気に満ちた中心市街地の将来像を検討するために必要な議論を行うために設置した組織であります。市長が本部長を務めている市政戦略本部において、本市の重要な課題について戦略会議を設けることとしておりまして、その中の一つとなっております。戦略会議の委員構成は、市長はじめ、学識経験を有する者や地元住民の代表など、計６名で構成されたものであります。

令和元年１２月からこれまで４回開催いたしまして、資料４にあります、中心市街地の人口や土地利用などの基礎データなどを参考とし活発な議論が行われまして、委員の方々から多数の意見を

頂きました。

なお、資料4の内容といたしましては、中心市街地を含む小牧地区の高齢化率が市平均よりも高く、人口は横ばいである。中心拠点の事業所数、従業者数は、平成13年と平成24年を比較いたしますと、ともに減少しているのが現状であります。

それでは、資料5を御覧いただきたいと思います。

この資料におきましては、これまでの戦略会議での議論を、中心市街地の目指す姿とそれに向けたまちづくりの方向性としてまとめたものであります。戦略会議の委員の御意見を「できるとイイね」という表現で、定住、空間、資源、来街者、情報、商業、ヒトの7つの視点別に整理いたしまして、中心市街地の目指す姿を、訪れたいまち、住みたいまち、活力があるまちといたしました。また、まちづくりの方向性として、訪れたいまちでは「まちの魅力があふれ、居心地が良く、歩いて楽しいまちなかを目指す」、住みたいまちでは「都市機能や生活利便性の高い施設が集積し、快適に暮らせるまちなかを目指す」、活力があるまちでは、「空き店舗のリノベーションや起業応援など、活性化を担うヒトがチャレンジしやすい取組を進め、官民連携による飲食・物販・サービスなどの集積と持続可能なまちなかを目指す」としています。

次に、ページの裏側をお願いいたします。

2のまちづくりの施策であります。先ほど整理した意見を踏まえ、施策展開を視野に入れて、できるとよい項目をピックアップしたものととなります。

ページ左側は、先ほど説明いたしました3つの方向性ごとに整理したものととなります。

また、ページ右側をお願いいたします。こちらにつきましては、中心市街地の持つ特性により、小牧駅から小牧山までの間を大きく2つのゾーンに分けて施策を整理したものととなります。小牧駅から中央図書館、ラピオを経て、たこ焼きのほていやさんのあるあたりまでを都市機能集積ゾーン、そこから小牧山までの間を歴史・文化ゾーンとし、それぞれの特性に合わせて今後の具体的な施策展開につなげることができればと考えているところであります。

続きまして、議題（4）中心市街地グランドデザインの策定方針についてであります。資料6を御覧いただきたいと思います。

先ほど御説明いたしました戦略会議における内容をまとめ、中心市街地グランドデザイン策定方針を定めましたので、御説明いたします。

1の中心市街地の現状と特性であります。

ここでは、今年オープンした小牧市中央図書館、こまきこども未来館と併せ、駅前広場等の再整備を進めていること、また、小牧駅周辺の商業機能と多世代交流機能が集約している一方で、小牧山に近くなるにつれ歴史・文化資源が多く見られまして、歴史薫る落ち着いた景観が広がる特性であることなどを記しております。

ページの右側をお願いいたします。中心市街地グランドデザインの策定背景であります。

本市では、2017年3月に立地適正化計画、2020年2月に都市計画マスタープランを策定いたしました。小牧駅周辺については、駅前広場等の再整備に取り組むなどして、魅力とにぎわいのある中心市街地を創出することとしていますが、近年は、空き店舗数の増加などにより活力の低下が課題となっているところであります。

今後は、小牧駅周辺のにぎわいが、地域資源である小牧山までの間でつながり、将来にわたって魅力と活力の続く中心市街地を目指すため、「中心市街地グランドデザイン」を策定し、フィールドヴィジョンを描こうとするものであります。

続きまして、3の位置づけであります。

記載のとおり、市の最上位計画であります小牧市まちづくり推進計画第1次基本計画や小牧市都市計画マスタープランなどの上位計画に即すとともに、各種関連計画等と連携を図るものであります。

ページをはねていただきまして、4、策定体制であります。

ランドデザイン策定のための取組体制といたしましては、(1)策定部門の役割。市長は、計画の原案を提示いたします。そして、②として、中心市街地ランドデザイン策定委員会では、計画の策定に関して必要な事項について調査及び検討を行います。また、③のワークショップは、幅広い人々にまちづくりのアイデア出しを行っていただくために開催いたします。(2)市議会との情報共有といたしましては、適宜状況報告いたします。(3)としてパブリックコメントを実施いたします。

なお、ワークショップにつきましては、後ほど報告事項として内容を説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

ページの右側をお願いいたします。計画の推進であります。

将来にわたって魅力と活力の続く中心市街地を形成するためには、行政だけでなく、様々な活動主体に参加していただき、それぞれが連携・協働しながら課題を解決していく必要があります。また、計画を推進するためには、施策の実施状況について点検・評価を行い、PDCAサイクルに基づいた計画の進行管理と事業の改善が重要となりまして、必要に応じて、地域住民などの外部から成る組織の立ち上げを検討します。

ページをはねていただきまして、6の策定スケジュールであります。

今後、7月25日から9月にかけて3回のワークショップを行いまして、具体的な施策についてアイデア出しを行っていただきます。ワークショップでのアイデアをもとに事務局でランドデザインの素案を作成し、第2回の策定委員会で御意見を頂きたいと思っております。その後、都市計画審議会、都市景観審議会を経て、第3回策定委員会を開催いたします。その後、パブリックコメントを実施し、令和3年度中に計画を策定するスケジュールを今のところ考えております。

以上であります。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

ただいま事務局より、一昨年、昨年と戦略会議で議論されてきた内容のまとめと、我々が今から取り組むランドデザインの策定の方針というところで、資料4・5・6について説明いただきましたが、委員の皆様から何か御質問等があればお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

鶴田委員、お願いします。

【鶴田委員】

資料6のところで質問させていただきたいです。

策定の背景あるいは位置づけのところに、上位計画に立地適正化計画とございますが、平成29年に策定されておりますので、昨年度の都市再生特別措置法の改正に基づく災害危険エリアについては今後改訂が必要になると思われますけれども、今回対象としているランドデザインの範囲内にレッドゾーン、イエローゾーン等が入っていて、影響があるということはございますでしょうか。

【大塚委員長】

事務局、お願いします。

【事務局】

委員から御質問がありました、災害等のレッドゾーンがあるかないかという話であります。

この計画、前にも地図があると思いますが、その中には、そういった災害のゾーン等は含まれておりません。

【鶴田委員】

ありがとうございました。

【大塚委員長】

ほかにいかがでしょうか。

特にこれから皆さんが議論していくに当たって、この計画策定の方針といったところを共有していただければと思っておりますが、よろしいですか。

グランドデザイン戦略会議でのまとめについては、持ち帰っていただいて内容を見ていただいて、御理解を深めていただければと思いますし、会議を進めていくに当たって何か確認したいことがあれば、その都度御発言いただければと思います。とりあえず今の段階で特に御質問がなければ、次に進めさせていただきたいと思いますが、よろしいですか。

ありがとうございます。

それでは、次の議題の（５）中心市街地グランドデザインの体系（案）についてに移りたいと思います。

最初に事務局より御説明をお願いいたします。

【事務局】

着座にて失礼いたします。

議題（５）中心市街地グランドデザインの体系（案）について、私から説明させていただきます。

資料７をお願いしたいと思います。

上段に小牧市の中心市街地の現状と課題を記載しております。課題につきましては、戦略会議の中で上がったものを、先ほども申しました定住、空間、資源、来街者、情報、商業、ヒトの７つの視点ごとに整理したものになっております。

下段の左側、中心市街地グランドデザインの将来像（案）を御覧いただきたいと思います。

戦略会議におきましては、先ほどの７つの視点別に課題解決のための取組のヒントを整理いたしまして、中心市街地の目指す姿として、訪れたいまち、住みたいまち、活力があるまちという３つの柱を置かせていただきました。さらに、都市計画マスタープランの中南部地域のまちづくりの目標である小牧山や中心市街地としての魅力を活かし、歩いて楽しめる活気あるまちを中心市街地グランドデザインが目指すまちの将来像とし、３つの柱ごとに施策を実施することで、将来像の実現を目指していきたいと思っております。

続きまして、右側の中心市街地グランドデザインの取組をお願いいたします。

戦略会議で委員の皆様から頂いた御意見を取組のヒントといたしまして、3つの柱ごとに取組方針と施策を置かせていただきました。

訪れたいまちの取組方針といたしましては、歩いて、楽しみながら回遊できるまちづくり。そこにひもづく施策といたしましては、歩道空間の有効活用、寄り道したくなる路地空間の創出、歴史・文化資源の活用といたしております。中心市街地には、市のシンボルである小牧山をはじめ、今年オープンした中央図書館やこまきこども未来館などの多世代が交流できる拠点がそろっており、この貴重な資源を生かし、市の玄関口である小牧駅まで魅力がつながり、歩いてみたくなる回遊性があるまちなかを目指すものであります。

次に、住みたいまちの取組方針といたしましては、生活利便性が高く、歩いて、快適に暮らし続けることができるまちづくり。そこにひもづく施策といたしまして、まちなか居住の推進、公園や芝生広場等の憩い空間の創出としています。本市の中心市街地は、他の地区と比べ人口減少率が低い傾向にはありますが、居住者の高齢化は進行しております。子育て世代を中心とした転入促進のため、ゆとりや安らぎを感じられる空間を形成するとともに、都市機能、生活機能が充実した中心拠点ならではの利便性を兼ね備えた、誰もが快適に暮らせるまちなかを目指すものであります。

次に、活力があるまちの取組方針といたしましては、魅力的で、特色のある店舗や地域資源が集積する持続可能なまちづくり。そこにひもづく施策といたしましては、空き家・空き店舗の利活用の促進、多様な人が関わるにぎわいの創出としています。中心市街地の核となるシンボルロードから路地にかけて点在する空き家・空き店舗を有効活用し、活性化を担う人がチャレンジしやすい仕組みを構築することで、人が集まりにぎわうまちなかを目指します。

なお、施策ごとの具体的な実施内容につきましては、ワークショップ及び第2回策定委員会で議論することとしておりますが、戦略会議で出た意見をもとに現時点でまとめたものが、次ページの（2）施策における展開方法の素案となります。

ただ、こちらの内容につきましては、今後実施するワークショップにおきましてアイデア出しを行う予定であるため、ワークショップの結果を受けて追加修正を行いますので、御承知おきのほどよろしくお願いしたいと思います。

次ページをお願いしたいと思います。

戦略会議におきましては、中心市街地の特性から、東側を都市機能集積ゾーン、西側を歴史・文化ゾーンといたしまして、ゾーンごとに施策を落とし込んだものになります。また、参考資料といたしまして、主に歩道の有効活用の事例紹介も皆様に事前送付させていただきました。時間の都合上説明は割愛させていただきますが、今後施策を検討していく際の参考としていただければと思います。

以上であります。

【大塚委員長】

ありがとうございました。

ただいまの資料にありますように、ランドデザイン戦略会議で議論されたことを踏まえて、それをベースにしながら体系の案を用意していただいているわけですが、その中にと組のヒントということも書かれているので、そういうのが議論の取っかかりになるかなと思います。そういうのを御覧になられて、実際にこれを具体的なものにしていくためには、やはりそこに住んでいる人たち、働いてみえる方、商売されている方、いろんな方が中心市街地で活動されているわけですので、そ

ういう人たちが普段どういう思いで、何を必要として、どんなことをやっていきたいかということを考えて活動されているのかというところがないと、具体的な実効性のある計画にならないと思います。そういう意味で、そうした担い手の皆さんのお考えをこの計画に盛り込んでいきたいと思っております。

ここに書かれていることで関連することを御発言いただいてもいいですし、書かれていない、不足しているもの、こんなことがあるんじゃないのというところで、普段考えてみえるようなことでも結構です。どこからでも結構ですので、御発言いただければと思います。

いかがでしょうか。

犬飼委員、どうぞ。

【犬飼委員】

すばらしい計画だと思うんですけども、これをとにかく持続していかないといけないということですよ。そういった中でベースになるのは、僕もガイドボランティアやっているからというわけではないんですけども、ここにあるように歴史・文化資源の活用というところが結構な柱になるんだろうと思うんです。

その前に1つ、その前のグランドデザインの策定方針というところ。これ、皆さん御存じのようにいわゆるデミングサイクルが出ていますけれども、僕らが習ったのは、この前に「CA」をつけろということですよ。とにかくプランの前に現状分析があるだろうというところが気になるということです。

なぜかという、最近ちょっと聞くんですけども、小牧山のバスの駐車場の向こうにテント小屋みたいなのがあって、ちょっと前に市内の方々から、民芸品とかいったものを提供してくださいということで集めたいらしいです。それがずっと入れたままになっていて、最近、本当のボランティアの人たちがそれを1個ずつ調べて整理している。僕も小牧の人間じゃないですけども、ここに来て40年、ほとんどふるさとです。そういった中で過ごした中で、はっきり言って文化的なものというのは全く興味なかった。小牧山も、昔は花見に行くぐらいです。

それが10何年前に、これだけの史跡が発見されて歴史に再浮上したという、非常におもしろいというか、希少な史跡です。それをやっぱり前面に出さないということであれば、いろんな人がワークショップを、今までももっと活用するべきだったんじゃないかと思う。やっていたんでしょうけれども、私が知らないだけだと思うんですけども、突然、みんな集まってよろしくお願ひしますよと言ったって、今までの蓄積がなくて難しいなんて、なるべくこういったことを続けていってほしい。

例えばれきしるも、2年前に開館して、僕らも1年間大分頑張ってガイドしたんですけども、その間、常に日誌を出していたんです。それに、お客さんから聞いた話、僕らの意見を出しているんですけども、すぐできることはやってもらっているんですけども、基本的なところで、ちっともそれが反映されるとは思えない。そういったところをCAしていただいて、生かしていただきたいなと思います。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

特に、歴史・文化というところが柱になるのではないかとということですね。そうしたところを柱

にまちづくりを進めていく、小牧市としては今が一番いいタイミングだと思います。これまで小牧の歴史や文化にあまり関心がなかった人たちも、今はかなりそうした関心を持ってみえる人が増えてきているのではないかと思います。その関心を大事にし、そうした声を吸い上げながら継続してまちづくりをやっていくということですね。

【犬飼委員】

次世代にということが基本にないとだめだと思います。僕らは先がないからね。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

それは市長も聞いていただいていると思いますので、ちゃんと届いているかと思います。

ほかにいかがでしょうか。

【永渕委員】

私、大阪に 30 年以上住んでいまして、ここに来て最初に思ったのが、外国人がすごく多いなということです。

娘も保育園へ行ったり小学校でお世話になっていきますけれども、必ずクラスにいろんな国籍の子供たちがいて。子供同士は小さいときから一緒に、もちろん子供は日本語がしゃべれるから同じように育っていけるんですけれども、これからどうなるかなという、外国人の子供たちが大きくなったときに、日本にいてよかったなと思えて。子供たちも、国際化だから英語を勉強しろとか言っていますけれども、クラスの友達の外国の文化とかをお互いにわかり合っていないなというのがあって。そういういろんな国の人が住んでいる小牧という視点もこの計画に入れていただいて、外国の子供たちも優秀な子もたくさんいるので、将来的にも世界へ羽ばたいていって、「自分は小牧というところでいい教育を受けてこうなったよ」というふうになれたらいいなと思いました。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

今の御発言、外国人の方が多いということで、やはりそれは小牧市の特徴でもあったりします。そういう特徴をどう生かしていくか。多文化共生を実践していく中で中心市街地の子供たちが教育を受けて育っていくわけですが、自分たちのまちを誇りに思えるような子供たちを育てるということが、将来的には中心市街地の活性化にもつながっていくところかなと思いました。

ありがとうございました。

ほかに何かありますでしょうか。

【生田委員】

今、犬飼様と永渕様のお話を聞いて、刺激を受けました。

まず、永渕様のおっしゃられた外国人の方が多いという話は、やっぱり子育て世代からすると、これからのグローバル化に向けて、いろんな国籍の方と話す機会があったらよいということではないかと思います。それが何か魅力につながるような発信になっていくと良いと思いました。

一方で、犬飼様がおっしゃられた歴史的な面。戦略会議では分かりやすく、小牧山付近の落ち着いた

いた歴史的景観と駅側の施設が集積しているエリアとして位置付けました。でも集積エリアにももちろん文化的なもの、あるいは残せたらいいなと思うような町並み、風景というのがあるので、それらも一緒に一体として、様々な楽しい発信とともに文化的なものと触れ合うようなエリアがイメージされるとよい。そのときにサイン戦略がとても大切だと思いました。

先日ある市役所へ行って、そこのサイン計画は、オリンピックのサイン計画をなされた事務所に頼んだとおっしゃっていて、非常にわかりやすく、ぱっと見た目に楽しい雰囲気。子供に触れやすい雰囲気にわかりやすく計画されていて。サイン計画で、外国人の方も含めて様々な方に親しみやすく、歴史とか魅力というのを伝えていけるようなサイン戦略が練られるとよいと思いました。

もう1つ、歩道空間の有効活用について戦略会議のときからお話しさせていただいているのですけれども、このところコロナで室内が密になれないということで、外部空間を使って密にならずに、まちづくり活動をしていこうという気運が高まっています。全国的にも外部空間、特に歩道空間をいかに有効に魅力的な場所として活用できるかという社会実験が行われている状況です。

店の中にある楽しい要素を歩道空間でいかに出していくかというのを、いきなり全部を整備してしまうと変化しがたいものになってしまうので、実験的に取り組みながら、何かまちづくりが進んでいくとよいのかなと思いました。

外部視点で住んでいらっしゃる方の視点と食い違いもあるかもしれないですけれども、外から見ている者としてはそのように感じております。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

地域の、小牧の方も、外からの声というのを聞く機会はなかなかないと思いますので、そういうところをヒントにさせていただいて、いろいろまた御発言いただければと思います。

どうぞ。

【廣瀬委員】

私は、資料7の3ページ、中心市街地グランドデザインの体系（案）の地図があるページを見て感じたことです。都市機能集積ゾーンと小牧山を挟んだところに歴史・文化ゾーンというふうにゾーンが分けてあって、そこを中心市街地として今後考えていくに当たり、率直に感じたことです。

お寺が歴史・文化ゾーンの中には幾つかあるんじゃないかと。お寺が幾つかあるということは、その幾つかのお寺を維持されている、運営されている、動かしていらっしゃる方がいる。その方たちにも宗派があったり、多様な部分があるんじゃないかと思っていました。私はお寺をやったことがないからわかりませんが、何となくのイメージとして、お寺には檀家さんという方がいらっしゃるってお寺が続いてこられたという、お力添えされてきたという立場の方が、市内に限らず市外にもいらっしゃる。お寺としては檀家さんを大事にしているところがあると思います。

ここに、地理的にお寺が幾つかあるというところに、歴史・文化ゾーンですよとあるんですが、これから話し合いする中で、お寺のどこかの方が話し合いの中にいらっしゃらなくていいのかなと思う部分があります。お寺にも、地域に開放する気があるよ、宗派関係なくいつでも来ていいですよ、檀家じゃなくても来ていいですよというお寺もあれば、いやいや檀家さんだけというお寺もあるのかもしれない。そのお寺さんの多様性と言っていいのかわかりませんが、地

域に開放する気があるかないかというところの確認とか、このゾーンの中に入っちゃっているということを御認識いただいているかどうかの確認というのは要るのかなと率直に思いました。

その上で、ここの中心市街地グランドデザインの会議をこれから始めていくよというタイミングで、お寺さんは、この歴史・文化ゾーンの中にいる、力を出すよという主体者としてここにいないでいいのかなというのは思っています。

後からこういうふうに決まりました、その上でお寺さん力を貸してくださいと言われたときのお寺さんの気持ちを考えると、途中まで全然知らないけれどもというところがないかなと思ったりするんです。むしろ最初から、こういう話があるんだけれどもここから一緒に話をしませんか、何かしていただけるのでしょうか、一緒に話し合いませんかというのと、ある程度決まったところで、お寺さんこの地域に入っているのでもよろしくお願ひしますと言われるのとでは、まとまる方向性というか、そこまで決まっているなら、何で最初からしてくれなかったと思う部分があるのと、そういうところの折り合いがなかなか難しくなってくるかなと思いました。

檀家さんというのをとても大事にされているんじゃないかなと思うので、その意味でも、スタートラインのところからどういった関わりでこの場にいるのはわかりませんが、これから進めていく上である程度決まってから持っていくというのがこのゾーンの中にいらっしゃる主体的な方として、商業の関わりだけじゃなくて、歴史・文化ゾーンの中にどうしても発言力というか、ある意味歴史・文化ゾーンというところの体现者のところの方のお声というのは必要かなと思いました。

長くなりましたが、以上です。

【大塚委員長】

ありがとうございました。

廣瀬委員のお話を伺ってはっとしました。ああそうだ、それがあつたんだというのを気づかされたところですよ。

今のことについて、何か事務局として御回答いただくようなことはありますでしょうか。

【事務局】

都市政策部長の鶴飼でございます。

大塚委員長のお話があつたとおり、事務局としてもはっと気づかされた部分でございまして。一度、このエリアにあるお寺の関係の方に事務局でお話を伺うということで取り組んでまいりたいと考えております。

詳しいことは次回なりに御報告申し上げますので、よろしくお願いいたします。

以上になります。

【大塚委員長】

ありがとうございました。

当然お寺さんは檀家さんを大切にされていると思いますが、地域のお寺ということで地域にいかに関与するかということも考えていただいているお寺さんも結構たくさんあると思います。

小牧のお寺さんがどうなのか把握はできておりませんが、ぜひ協力していただいて、みんなでやっていくような体制がスタートの時点でとれて、その後にもうまくつながっていくよう、ここに参加

していただけないにしても、こういうことをやっているということを情報として伝えていただくなりして、別途対応いただくような形も考えられるのではないかと思います。その後の実行につながっていくようなことをやっていくということが必要なのかなとは感じました。

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

日比野委員、どうぞ。

【日比野委員】

今のお寺の件ですけれども、ご存知のように各宗派があって、その意思の疎通というか、そういうものが通っているかどうかは、一つ一つ聞かれるのはいいと思います。同じ答えが返ってくるかどうかわかりませんが、お寺さん同士の教区に問い合わせられたほうがいいのかもしれませんが。宗派が集まって組織を作っておられるわけですから。この地区にあるお寺の一つの総代をやっていますけれども、非常に難しい面をそれぞれ抱えておられると思います。でも、それぞれのお寺さんにはいろんなことで協力体制は取っていただけるんじゃないかなと思います。今のお話に対しての意見です。

ちょっとお聞きしたいのは、昔から道標というのがこの地域にもあります。西へあるいは北へという、横町の戒蔵院のところに道標があるんです。よく歩いているから気づいているんですけども、結構あるだけであって、それを説明しているものがないように思います。そういうものを大切に、皆さん方に周知していくというのはものすごく大事じゃないかなと思っているんです。そういうのを犬飼委員はよくご存知かもしれません。

【犬飼委員】

結構おもしろい。

【日比野委員】

おもしろいですよね。

だから、一宮方面へ行くか、あるいは木曽路へ。どこかにちょろちょろつとあると思うんです。道標を作り、東西南北の方向を表した時代は、江戸なのか、それ以前なのか知りませんが、その時代の地図を表しているのもおもしろい。要するに、小牧を知らせる。尾張の中の小牧の位置を皆さん方に知っていただくというのが必要なことかなと。

そうすると、見てみよう、来てみよう、行ってみようという気になるんじゃないかなと思います。そういう話が、会議の中では言われていましたか。議論されていましたか。

【大塚委員長】

今おっしゃられたことは、私はずっと思っていたことですので、少なくとも機会があれば発言させていただいたと思います。

【日比野委員】

できれば、何らかの形で具体的にできてくるとありがたいなと。いろんな意味で。

そうすると、この考える会も非常に助かりますので。

【大塚委員長】

そうですね。ぱっと見てよくわかるものも小牧の魅力として大切だと思いますが、実は、見落としがちなところに結構貴重な、小牧の魅力となり得るものがあるので、やはりそれを発掘して、ちゃんと大切にして活用していくということもやっていかないといけない。それが息の長いまちづくりにつながっていくでしょうし、大切なことではないかなとは思いますが。

ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

水野委員、どうぞ。

今まではほとんど進行役ということで、なかなか御自身の発言の機会がなかったと思いますので、存分をお願いします。

【水野委員】

先般、小牧市は SDGs 未来都市ということで、令和 3 年度の SDGs 未来都市に選定されたわけですね。SDGs そのものは、17 の目標とか 100 幾つのターゲットとかとありまして、森羅万象といいますか、ほとんどのことが盛り込まれているんですが、SDGs 未来都市に選定されたということであれば、どの項目がどう関係するか、今すぐわかりませんが、グランドデザインを策定する上でそういう観点も取り入れていくということも考えたらいいいんではないかと思いますが、いかがでしょうか。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

そのあたりは、事務局、何か御発言いただくことはありますか。

【事務局】

確かに SDGs 未来都市として認定されたところでありまして、様々な計画も、SDGs との関連性を持たせてということですので、今後、まとめる際に関しましては、委員おっしゃられたとおりの形で、どういった項目に該当するかとかいったことをわかりやすく入れていきたいと思っております。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

ぜひ何か。せっかくですから、御発言いただいてお帰りいただきたいと思います。

名和委員、どうでしょうか。

【名和委員】

感性での発言になります。お許しいただきたいと思います。

商業者といまして最も大切にしていることの一つに、四季の移り変わりというのがあります。この四季の移り変わりがあるから、ビジネスでも様々な知恵、アイデアというのを出して、様々な取組をやっていくわけです。四季があるから日本の経済というのは発展してきたということも伺っ

ております。経済と四季とは切っても切れない関係。

そしてもう1点として、この四季には文化ということもあります。春祭り、夏祭り、秋の祭りとか。コロナ禍ということ的前提にすると、密とか賑わいという発言はできないですけども、それを一旦棚の上に上げさせていただきまして、ぜひ子供たち、将来の未来の子供たちに対して、四季の移り変わりによる文化の継承とかいったものを前面に出したことをやっていかなきゃいけないだろうなと思います。

つまり、四季というのは文化であり、経済でもあると思います。したがって、こちらの中身に、当然夏の施策と冬の施策というは全く違うと思います。例えば今ですと、災害ということなんかもありますし、そういった四季の移ろいがある内容というのをこの中に放り込んでいってもおもしろいのかなと感じています。

ただ、あまり春夏秋冬に合わせた施策になるとすごい膨大なものになってしまいますので、なかなか難しいと思うんですけども、ぜひ四季の感じられるまちづくりというのも考えてもいいのかななんて思いましたので、参考になるかどうかわかりませんが、一言発言させていただきました。

以上です。

【大塚委員長】

すばらしい感性だと思います。

大変貴重な御意見を頂いたかと思います。文化と経済から四季の感じられるまちづくりの必要性についてお話いただきましたが、年間を通して中心市街地ににぎわいをというところかなと思います。

ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。どうぞ。

【副島委員】

中心市街地グランドデザインということからいうと、なかなか難しい課題だなと思っています。

先ほどから歴史・文化のお話も出ていましたが、こういう形で取り上げると、トピックになることは出てくるんだけど、そのバックグラウンドにあるのが忘れられちゃうという可能性があります。

例えば、小牧山が信長が最初に造ったお城ということですが、すごいキャッチフレーズで注目を浴びて、それはすばらしいことだけでも、実はもう1つ、信長が作った城下町のまちだというものもあります。ところが、城下町というのは今残っているかという、ほとんど残っていないから、すごく切れてしまいます。お城、お城、お城、お城という話になっちゃって、そういうところが切れちゃう。

お城の西側に民具や何かの収納施設があります。あれも、実はどうしてできたかという、バックヤードが大事だという発想でできたんですよ。あそこは見せるものではなくて、今、よく小牧城と言っていますけれども、小牧市歴史館しか博物館的なものがなかったんです。ところが、狭いもんだから、いつも同じ展示だと人が来ないんです。特設展みたいなものをやると人が来る。常設展だけだとなかなか難しい。

れきしるができましたけれども、あれも一緒だと思います。同じものを続けていたら誰も来なくなる。人間、そういうものですから。だから、常設も大事だけれども、特設みたいなこともやらな

いと人を呼んでこれない。だから、時々はそのいうことをやるということが大事かなと。

そのときに、ああいう民具や何かを収納しているものでいろいろ変えて、今回はこういうテーマでやりましょうということで活用するということがすごく大事になってくるのかなと思います。

だから、中心市街地もすごく大事だけれども、この裏にはこういうものがあるよというというもの、これの派生として、それを全部整理しろと言うわけではないけれども、このバックにはこういうものがあるよということは、せっきくのまとめをするときには打ち出していけるといいかなというのと思っています。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

先ほどの日比野委員の道標の話とも通ずるところがあると思いますが、要するに、地域の資源をいかにまちづくりに生かしていくのかを考える際に、その資源が地域の人の中で共有されていないと資源にならないです。

それを共有するためには、いつもどこかに眠っているだけじゃなくて、ちゃんとこういうものがあるということをみんなに知ってもらうことによって初めて資源として活用できるということで、そういうことも併せてやっていかないといけないというお話だったかと思います。

ありがとうございます。

ほかに。

秦野委員、どうぞ。

【秦野委員】

私もこういった会議、中心市街地のことを話す会議というか、10数年前に出たことがあるんですけど、その中で、あったらいい館というお話を聞いたことがあります。小牧山の近くということで、メナード美術館もあるということで、そんな人が集まる文化施設が幾つかあると賑わいも出るだろうみたいなお話があったような記憶があります。

これは事務局もしくは行政さんに対する質問ですが、旧図書館のその後がどうなるか。ちょうどシンボルロードに隣接した位置にあるもんですから、ここの活用も。当然法的ないろんな規制がかかっていると思いますけれども。

さっきの古い道具とかを集めてみたいな話もありましたけれども、例えばそういった民俗博物館的なものにするような計画があるのか。この中に位置するもんですから、その利活用も考えた上で捉えたほうがいいのかという気はしていますので、もし何かお話しできる範囲がありましたら、お答えいただければありがたいなと思います。

以上です。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

旧図書館の跡をこの会議でどう取り扱っていけばいいかというところで、前提として、今の秦野委員の御質問に事務局からお答えいただければと思います。

【事務局】

市長公室の次長の駒瀬といいます。図書館の跡地の利活用の担当部署であります私から、現状について少しお話をさせていただきます。

旧図書館につきましては、今後解体を進めていくということになっておりますが、この跡地の利活用については、現時点では決まったものではありません。様々な規制等もありまして、いろいろな方の意見も聞きながら、どういうふうに活用していくかということ判断していきたいと考えております。

現時点では、特に決まったものがないという状況になります。

【大塚委員長】

といいますと、そういうことの活用のあり方みたいなことについても、この会議の中で意見として出させてもらっても、受け止めていただく余地はあるというところでよろしいでしょうか。

【秦野委員】

そうしてほしい。

【犬飼委員】

先ほどのお寺さんの話とか今の民芸品の話とか、ワークショップで出したほうがいいのかなと思っていました。

これだけのまちで文化とか何とかって言いながら、小牧に民芸館がない。れきしるは何って、僕らガイドしていてこんなことを言うのもなんだけれども、先ほど言われたように、石垣なんてもっと前からあるのをみんな知っているわけです。何がすごいかといたら、何もなかったところに城下町とお城をセットでつくっちゃった。そこが一番おもしろいところです。

そういった全体を示すものというのが、小牧には何もないです。れきしるにも、石垣があるけれども、お城と城下町はこういうふうになっていましたという、ジオラマでも何でもいいんだけどもやってって出しているんだけど、どうなっているかなという。僕らが説明するときに、全体を説明して、その中で石垣がこの後の時代を動かしたような作り方になったからすごいんですよ、という話なんです。

小牧全体としての全体像を説明できるものが何もないです。さっき言われたように、前から思っているのは、図書館の跡。せつかくあんな広いところがあるんだったら。

京都なんて、すごいジオラマがありますよね。そこまでいなくても、もっと小さいものなら作れるんじゃないという気がします。全体がわかることがまず要る。そこから道標がこういうところにあるよとかやっていけばいいと思うんです。

その辺を、ここは最初の大きいあれだから、そういう具体的なものはワークショップかなと思っていましたけれども、とりあえず出たので、全体のことを考えていってほしいと思います。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

核となる拠点と個々の小さな点を結びつけてどう町をつくっていくということだと思います。

ありがとうございます。

どうぞ。

【加藤委員】

戦略会議が始まった頃は、まだ新図書館もできていなくて、こども未来館もなかったんです。その中で、そこができたかどうかというふうになってほしいということもいろいろ語ったわけです。その中で、今にぎわい広場というのが新図書館の北側にできました。そういったものを活用するとか、電源があったらいいよねといったのも、戦略会議で話し合われたことが多少具現化されて、計画に盛り込んでもらって、今完成している。今度は、ハードができればソフトを、どう生かしていくってにぎわいを作るかという話になってくると思います。

今度、駅の西の広場とか東側のエリアができていくと思うんですけども、今はまだ計画中、工事中ということなので、ぜひこの中で、もっとこういうふうにしたい、こういうのはどうだろうというのを織り込めることができるなら、この中で発言していきながら、どうなっている、だったらこれでどうということもやりながらハードができて、だったらソフトをこうしてほしいという、すぐ見える未来を語り合った中でできていくといいなと思っております。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

時間も来てはいますが、今日は最初ですので、皆さん自由にお話しただいていのですが、今日のところは、資料7の体系で、今後これに沿って、中身を個々の内容を具体的に出していただいて詰めていくということをやっていききたいと思います。まだ御発言いただいていない方、強制はしませんが、よろしければ。

【眞水委員】

最後の締めにするにはおこがましいですけども。

私、ラピオ通り商店街振興組合から参加させていただいておりますが、もともとの名前といたしましては、60年ほど前でしょうか上本町商店街ということで、実は父が商店街の組合を作ったと聞いております。

私も今回初参加ということで、皆さんの意見をお聞きしながら、私は小牧の何が好きかなと考えたときに、皆様、小牧山と言われますが、小牧山も当然ですが、小牧駅から西を向いたときの小牧山、季節でいうならば初夏。緑萌える小牧山というのが大好きな季節です。

先ほど名和さんが言われたように、四季それぞれの中で商業があり、また、春祭り、夏は夏祭りというものの、今はこういう時期ですのでストップしておりますが、また復活させていただいて。実は、小牧は夏祭りが非常に盛んでした。恐らく市長も、小さな頃七夕祭りを楽しんだ経験がおありだと思いますが、そういったものを子供たちにも残していけるような仕組みをまた存続しながらと考えております。

商店街の中は今、非常に歯抜けの状態になっておりまして、私自身は魅力あるまちとはとても思えないです。これというのは、小牧市の周りの商工業、非常に大きな企業がたくさんございますが、そういった方々が皆さんまちの方へお越しただけのような仕組みづくりも必要かなと思います。

当然歴史大事です。歴史が好きな方も当然おみえでしょうし、飲食で楽しんだり語り合いたいというのも、好きな方もたくさんおみえだと思います。

私、民生委員もしております、おばあちゃま、おじいちゃまのお話を聞く機会もございます。

そのときに、今年はお祭りないねという、ちょっと寂しいねという意見をお聞きすることもあります。今、非常に高齢化社会ですので、年齢の高い方、小さな園児の方も楽しんでいただけるようなお祭りも再復活していただきたいなと思っております。

私は、まちづくりの中で、30年ぐらい前でしょうか、先ほど副島先生がおっしゃられた宿場町だというお話がありましたが、伊勢神宮の周辺のおかげ横丁が大好きで。もちろん、お伊勢さんというメインのものがございますが、そこに皆さん集うまちもみんな、建て方であったり、そういった規制があつての建築と見ております。

やはり何か事を起こすときに、行政もそうですが、何か一本決めたもの、ポリシーというか姿勢といったものも取りまぜながら進めていただくとよろしいかなと思います。

以上です。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

鶴田委員、お願いします。

【鶴田委員】

今回、特に体系の部分について、これで進めていいかということだったので、時間がないですけれども、そこに関わるので簡単に話させていただきたいです。

先ほどからお話を聞いていて、結局人にどう伝えるか。次世代にどう残すかとか、担う人たちにどう伝えていくのか、子供たちがそれをどう捉えていくのか、伝えていくのかという、人育てみたいな、人にどう伝えるのかということが、皆さん非常に重要だとお考えだと思うんです。

それが例えば資料5ですと、一番右の欄に「ヒト」という欄があつて、戦略会議でもやっぱりヒトって重要だよねということで想像していたんですけれども、資料7ではそれが取組のヒントの中でほとんど出てきていないんですね。住みたいまち、訪れたいまち、活力があるまちといったときに、このヒトというのが唯一出てくるのが、市民主体のイベントの開催というのが下から3行目にあるんですけれども、それ以外は全てなくなっているというか、実際にはこの3つの項目にすると非常に入れづらいと思います。

なので、私はこの体系の中の4番目になるのかどうかわかりませんが、作ったプラン、あるいは作る過程も含めてもいいかもしれませんが、できたものを次世代へどう伝えていって、あるいは市民がそれをどう受け止めて、どう活動につなげていくのかという、要は死んだプランにしないと言ったら変ですけども、作って終わりじゃなくて、それを市民が受け止めて、市民が使っていく。それは、先ほどあった商店街の方もそうですし、子供たちもそうですし、次世代を担うボランティアの方たちもそうかもしれませんが、様々な方々が多分担っていくと思うし、そういうものを4つ目に作ったらどうかなと思うんですけれども、いかがでしょうか。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

大変重要な御指摘だと思います。4本目の柱とするか、あるいは全体に係ることなので、通常よくある計画ですと、計画の実現に向けてというところで今のようなお話を中心に展開していくという方法もあるのかなという感じもしますが、そこら辺はどうでしょうか。事務局で検討いただくと

いうところでよろしいですか。

それでは、時間も来ておりますので、たくさん意見が出されておりますが、市長、まだ御退席されておらずいらっしゃいますので、もし何かございましたら、市長から御発言いただければと思います。

【山下市長】

大変熱心に御議論いただきました。私も大変興味深くお話を聞かせていただきました。

今日は大変短い時間で、十分な時間が取れずに発言が十分でなかったかも知れませんが、委員長から、一言というお話を頂きましたので、私から少し申し上げたいと思います。

いろんな御意見を頂きました。所感で申しわけないのですが、先ほど道標の話がありましたけれども、私もまさにこの中心市街地の真ん中で生まれ育ったわけですが、市民の皆さん方広く、15万市民でありまして、外から来た方も多いわけでありますから、昔の町並みとか昔の歴史とか文化を十分に知っている市民ばかりじゃないなというのは当然ですけれどもございます。

信長の小牧山城という話であります、城下町も一体に整備されたわけですが、そのときに神明社ができて、神明社は今夏祭りでありまして秋葉祭をやっております。お囃子、太鼓、からくりもあるんですけれども、辻々でどんてんをやったりするんですが、屋根神さんのほうを向いてからくりを披露したりということがあるということでもあります。

あの秋葉祭も実はほとんどの人が知らないという状況もありまして、残念だなということがあって。平成夏祭りが終了いたしまして、いろいろな経緯がございますけれども、令和の夏まつりを始めて。今コロナですから中断せざるを得ないですが、令和の夏祭りにおいては、地元の秋葉祭との共同開催ということで始めたわけです。皆さん方に文化を知ってもらおうということで、こういったソフトの面も、図書館、未来館とかハードの面のみならず、進めようということで進めております。

そのほか、いろんな意見を伺って、私もなるほどなと思うことも多々ございました。先ほどの資料でスケジュールをお示しいたしましたけれども、この後ワークショップを、実はもっとコンパクトにぽんぽんぽんやって次回の策定委員会をもう少し早くやりたいなと思っていたんですが、スケジュール調整がなかなかできずに、次回が秋になってしまうということでもあります。

今日御発言いただいていない方もおみえになるので、ワークショップが終わった後、秋というのは間が空いちゃうもんですから、私からの提案としては、今日の私どもから戦略会議の議論の状況を資料5でお示しして、資料6、グランドデザインの体系の案ということで資料7もお示しいたしましたが、こういった状況の御説明も本日申し上げた上でいろいろと御意見も頂きました。もちろん時間がないので御意見不十分で、まだ発言されていない方もおみえになるので、もしあれでしたら、皆さん方から書面ででも、事務局へ御意見をお寄せいただくようなものがあればお寄せいただいて。それについては取りまとめて、参考にしながら計画の修正等にも反映させながら、次回、またこちらの第2回の委員会にも提出させていただいて、それに基づいて議論を深めていただくようなことを、進行上の工夫をさせていただいたほうがいいのかなということも思いましたので、また委員長と御相談させていただきますので、事務局と十分に御相談していただいて取り計らいいただければありがたいなと思っております。

なお、先ほど御指摘いただきました資料5のまとめにつきましては、戦略会議で最後にお示しいたんですが、資料7等につきましては、あくまで事務局でそれをもとに本日初めてお示しいた案で

あります。これはあくまで素案でございますので、何ら決まっているものではございませんので、今後、皆さんの御意見や、ワークショップの御意見、様々検討をいたしまして、中身を充実させていきたいと思っております。先ほどの鶴田先生からの御意見も含めて、十分に検討させていただきたいと思っております。

なお、最後に、旧図書館の跡地の利活用の問題について触れていただきました。

この件につきましては、担当の市長公室からお話ししましたように、今の時点では、結論として旧図書館の建物については解体していくことは決まっております、既に解体の設計に入って、次、解体していくという段階でございます。

この利活用ですが、もちろんこの会議の中で、全体のまちづくりの観点からの御意見というのは出していただいているかと思っているんですが、いろんな御意見がございます。戦略会議でも御意見ありましたし、市議会とか、様々なところで様々な御意見もございますが、現状の法規制の問題とか様々なことがございまして、必ずしもこうあったらいいねということが即実現できるということでもないということでございます。例えば隣の神明社の秋葉祭、先ほどお話がありましたけれども、山車が5両ございますけれども、その山車倉庫も老朽化しておりまして、こういったものが建てられないかとか、例えば博物館的なものがなかなか難しいということ、あるいはあそこは第一種中高層住居専用地域になっておりまして、都市計画上の観点からの制限、そしてまた、特に広域からの集客施設のようなものはそぐわないということも現状の中ではございます。

にぎわいの観点とか、歴史的な文化的な観点とか、いろんな御意見があるんですが、現状ではできるものできないものがあるというのが実情かなと。あるいは周辺の住民の皆さん方の御意見等も最終的にはそういった計画に入れなきゃいけないだろうと思っております。

ただ、もう少しべたな話をすれば、地区計画を作ったりとか都市計画を変えればいいのかという御意見も、今日は専門家の先生方もおみえでございますので、極論すればそういった御意見にもなるかと思えます。これは、今のラピオ通りも含めて、シンボルロードも含めて、法規制的な面とかハード面の議論を必要であれば議論していただくということがございますので、現状では制限もある中での議論をしているということです。

ここで、このグランドデザイン策定委員会の中で土地利用を決めていくということはなかなか厳しいものがございますが、市として最終的には決定していかなくちゃいけないということを思っておりますので、そういう状況だということをここで少し御説明申し上げて。中でもう少し議論が進みましたら、御報告は申し上げたいと思っておりますが、現状そういうところでございますので、よろしくお願ひしたいと思えます。

少し長くなってしまいましたが、進め方等のことについても、進めにくいとかいろいろなことがあると思うので、これは御意見をお寄せいただいて、委員長の方の采配の中で、また、我々事務局としても、進行についてもできるだけ皆さんの御意見を頂きながら工夫していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思えます。

ありがとうございました。

【大塚委員長】

ありがとうございました。

今議題（５）について市長から御発言いただいたわけですが、市長のお話の中にもありましたように、皆さんから出された意見については、具体案の中に反映させていく。そして、この体系につ

いて鶴田委員から出していただいた意見については、検討して修正して進めていただくというところで行きたいと思いますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

では、そうしていただきたいと思います。

今お話があったように、この内容をもとにしましてワークショップで具体的に検討していただいて、それをフィードバックして、こちらでまた議論ということになります。

時間はありませんが、次の報告に入ります。中心市街地グランドデザインまちづくりワークショップの開催についてというところで、事務局から御説明いただけますでしょうか。

【事務局】

資料8をお願いいたします。中心市街地グランドデザインまちづくりワークショップについて説明いたします。

中心市街地グランドデザイン策定に当たり、様々な立場から中心市街地のまちづくりについて考えていただくためにワークショップを開催いたします。

去る6月15日から30日にかけて、広報や市ホームページ等で参加者を募集したところ、24名の応募がありました。なお、本日御出席いただいている委員の皆様、関係団体からも御応募いただいておりますので、ここにお礼を申し上げます。

このワークショップは、7月25日、8月22日、9月5日の全3回を予定しており、先ほどの体系（案）でお示ししました訪れたいまち、住みたいまち、活力があるまちの3つの方向性ごとにグループ分けをして、まちづくりに対するアイデア出しを行っていただきます。このワークショップで取りまとめたアイデアをもとに、事務局で中心市街地グランドデザインの素案を作成し、第2回の策定委員会で委員の皆様にお示しする予定です。

以上であります。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

ただいまの御説明、ワークショップの実施内容というところです。何か御質問等ございますでしょうか。

よろしいですか。

犬飼委員は、ワークショップにも出ていただけるということですか。

【犬飼委員】

ええ。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

先ほど日比野委員が手を挙げておられたのですが、簡潔に御発言いただければと思います。

【日比野委員】

確かに信長というのが中心にあって、小牧山・信長で一体ですけども、やっぱり三英傑という

形である程度捉えておいた方がいいんじゃないですかね。小牧・長久手の戦い、小牧御殿というのがありますよね。あの由来というのは。そういうものを入れるなら、このゾーンから外れますけれども、捉えていくというのも一つかなと思います。

時代の違いをクリアにしながら知らせる、紹介する場。そういう意味では、いろんな規制はあるかもしれませんが、旧図書館の跡地を利用していくと非常に、今住んでいる人にとっても、どういうふうにして小牧が成り立ってきたのかというフィロソフィーを伝えることが大事じゃないかな。時代を超えて生かす。

ぽつんぽつんぽつんとあると、たぶの木会の犬飼さんがおっしゃったんですけれども、そうじゃなくて、ぽつんでもいいんですけれども、それをスライスしたところの積み重ねだから、次世代に紹介していく工夫をされて、それを紹介する場。

そうすると、逆に呼べる。来てくれる人が、住もうというまではいかないにしても、行ってみたいというまちにぜひともしたいと思っています。

【大塚委員長】

そうですね。皆さんで、そうしたまちにしていきたいと思います。

【日比野委員】

よろしくお願いします。

【大塚委員長】

ありがとうございました。

議題（３）、（４）が終わりました。

５、その他に移りたいと思いますが、その他としまして何かございますでしょうか。

【事務局】

本日の会議録であります、事務局で作成次第、委員の皆様へ送付させていただきますので、御確認のほどよろしくお願いいたします。

その後、市役所内の情報公開コーナー及び市のホームページにて公開させていただきます。

次回の委員会につきましては 10 月上旬頃を予定しておりますが、日程が決まりましたら改めて御連絡させていただきます。

以上になります。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

一応今日の議題が全て終了ですが、先ほどお話ありましたが、次回まで少し時間が空きます。その間に皆さん、今日の資料を持ち帰っていただいてまた目を通していただいて、皆さんのさらなるアイデアとか構想をお考えいただいて、次回の会議に持ち寄っていただければと思います。

進行がちょっとまずくて、後ろの時間がなくなってしまって申しわけございません。次回からもう少しスムーズに進むようにさせていただきたいと思います。

今日は、御協力いただきましてありがとうございました。

進行を事務局へお返しいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

委員の皆様、本日はお忙しい中第1回小牧市中心市街地グランドデザイン策定委員会に御出席いただき、誠にありがとうございました。

今お話にもありましたが、会議録と合わせて資料を見ていただいて、案内を事務局からさせていただきますので、わからないところがありましたらよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、第1回小牧市中心市街地グランドデザイン策定委員会を閉会いたします。本日はありがとうございました。